

# SOCIAL&CREATIVE

行動することと、責任を負う覚悟を持つこと

だんだんつくる感覚を掴んできたのか、ものをつくることにこだわりを持ちはじめた2つの出版社。だけど、あまり楽しそうな雰囲気ではない。こだわることに重視してるように見えるのに、なんだか難航している。

「方向性は決まってるんですけど、書くことが決まってないんですよー。」

XXの小泉くんは、昼過ぎに行ったインタビューを失敗だと思っているようだ。予想していた答えが返ってこないことに満足していない様子。アイデアが浮かばずうまく記事にできないと言っていた。

わたしにはこの思考では脱・ワークショップができるとは思えなかった。ものづくりは、まず手を動かすことがブレイクスルーするのに重要だと、今までの経験からわたしは考えている。

「レイアウトが気になって文章はまだ書いてないんです。」

同じくXXの三田くんは、相談してから文章を書こうと思っているそうだ。レイアウトが気になるから、得意な画像編集から取り掛かっていると話していた。

わたしたちはこの合宿を通してクリエイティブ集団になることを目指している。それならば、パラレルタスクで、文章の遂行と画像の選択を行うのがいいのではないかなと思う。

あっという間に深夜になった。ここまでの活動を通して、決めることがものづくりで大事だと分かってきた。でも、決めることができない場面が同時に両チームで見受けられる。文章を書くことや、役割を振られることに自信がないのが原因だと思う。話し合いの輪には入っているけど、いざ重要なことになると、責任を負いたくないから自分はちょっと離れたところから眺めている。そんな状況があちこちで見えた。わたしが話を聞いた2人も例外ではない。ワークショップでは自動的に行われていた決定する行為に慣れているのが、疲れとともに浮き彫りになってきたよう。わたしたちが脱・ワークショップするために必要なものは、間違ってもいいから行動してみることと、決めたことに責任を負う覚悟を持つことだと思う。(村松)

